

● 国葬に反対する緊急アクション 国葬やめてください!

日時：8月13日(土) 13:30~14:30
 場所：松山市駅前
 呼びかけ：「市民連合えひめ勝手連」有志

● 第65回えひめ母親大会

日時：8月21日(日) 13:00~15:30
 会場：砥部町文化会館(砥部町宮内1410)
 記念講演：「ウクライナ、ジェンダーから9条へ」(資料代1000円)
 講師：伊藤千尋さん(国際ジャーナリスト)
 問い合わせ先：愛媛教育会館内 実行委員会 (Tel.089-933-2493)

● 政治カフェ「コロナについて語ろう PartIV」

日時：9月3日(土) 13:30~15:30
 会場：松山市民会館第4会議室
 問い合わせ先：生き生き政治ネット (Tel.089-924-2485)

● 劇団石(トル)ひとり芝居「キャラメル」公演 [脚本・演出・出演 きむきがん]

日時：9月7日(水) 18:30開演(18:00開場)
 会場：松山市民会館 中ホール
 チケット料金：一般3,000円(当日3,500円) 学生2,000円(当日2,500円)
 問い合わせ先：Tel.090-3788-4467 (野中さん)

● 映画「わが青春つきるとも - 伊藤千代子の生涯 -」上映会

日時：9月8日(木) ①13:30~ ②18:00~
 会場：コムズ5F大会議室
 料金：1000円(学生500円)
 問い合わせ先：「わが青春つきるとも」上映の会 (Tel.090-2893-4777 来島さん)

● 伊方原発運転差止訴訟 第30回口頭弁論

日時：9月29日(木) 14:30 開廷
 場所：松山地裁31号法廷 (原告13:00 支援者13:30 裁判所ロビー集合)
 報告集会：15:45頃~ R-2番町ビル5F
 問い合わせ先：伊方原発をとめる会 (Tel.089-948-9990)

伊方原発運転差止訴訟 第6次原告募集

締め切り = 9月30日 (10月14日提訴の予定)

応募に必要なもの：訴訟費用=1万円 委任状・承諾書(とめる会HPからダウンロード可)

「憲法9条をまもる愛媛県民の会」入会のご案内

かけがえのない日本国憲法第9条をまもり、活かすために2004年から愛媛県内の幅広い方々とともに活動しています。講演会や学習会、9条パレード、毎月9日の「9」の日宣伝行動などを行っています。憲法9条をまもる活動に参加しませんか。(入会申込書は武井事務所にあります)

個人会員 年1000円以上、団体会員 年2000円以上
 入金先：郵便振替口座 01640-8-92510
 連絡先：松山市北持田町131-1 教育会館2F ☎ 089-913-0448

武井事務所は月曜から金曜の10時~16時に開けています。ご相談の方は事前にご連絡ください。



野党の不在 国民の不在

参議院選挙が終わりました。野党の不在、そしてさらなる右傾化。しばらく前から危惧されていたこのことが明らかになるといふ、なんとも苦い結果となりました。

投票日前に安倍元総理が襲撃され死亡するという事件があり、若者や保守層の選挙への関心が高まるかに思われましたが、その影響は目に見えるほどには大きくなかったと思います。現在の選挙制度では大政党に有利で公正な結果は望めませんが、今や、それを理由にするわけにもいきません。というのも、5割ちよつとの投票率でしたが、もしも棄権した人たちがこぞって投票していたならば、日本の保守化は、さらにはっきりしたのではないかと思うからです。そう思わずにいられないのは、今回明らかになったのが、野党不在のみならず、多くの人々が「もの言わぬ市民」になってしまったことだからです。今回の選挙はそうした世相をくっきりと浮かび上がらせたように思います。

国政選挙がないといわれるこれからの三年間、この参議院選挙の結果と向き合って暮らすことになる……と考えると、どんどん気分が沈むので、気持ちを切り替えて、今回の選挙でさやかながら嬉しかったこと二点を挙げておきます。

一つは、福島瑞穂さんの当選で、社民党がなんとか政党体制を死守したこと。もう一つは、心から支持できる候補者がいて選挙に臨むことができたこと。一票を投じたい候補者がいない選挙ほど悲しいものはありません(当地には、たまにそんなことがある)。この人ならば、という候補者がいてこそこの選挙。今回、時間と野党的勢力の力不足で残念な結果ではありましたが、たかみちかさんの英断と最後まで奮闘に深く感謝します。

さて、選挙にはあまり影響をもたらさなかった安倍元総理の死ですが、「国葬」「旧統一教会との繋がり」という二大置き土産を遺していきました。まるで地獄の蓋が開いたかのように魍魎魍魎(ちみもうりょう)が飛び出してきています。この魍魎、私たちは退治することができるのでしょうか、それとも席卷され、またもや流されてしまうのでしょうか……?

大早 直美(生き生き政治ネット世話人)



市民連合えひめ勝手連

生き生き政治ネット 《政治カフェ》

コロナについて語ろう PartIV

日時：9月3日(土) 13:30~15:30

会場：松山市民会館2F 第4会議室(松山市堀之内)

新型コロナウイルス「第7波」で爆発的に感染が広がっています。いつになれば収束に向かうのでしょうか。愛媛県の医療体制はだいじょうぶなのでしょうか。気がかりですね。コロナ禍も3年目になりました。みんなでざっくばらんに語り合いませんか。

保護猫カフェ Nyacottoができて

「猫の不妊去勢手術補助事業」の予算が、年度末どころか毎年10～12月に切れてしまう問題に対して、松山市議会に増額を求めて出した請願が全会一致で採択され、その活動をする中で多くの方々とつながることができました。

ほとんどの方は自腹で、猫ご飯・病院・不妊去勢手術代を捻出し、寸暇も惜しんで取り組まれています。

さまざまな事情で猫を保護せざるを得ない現状に心を痛め、キャパシティを超えないように気をつけながらも、いっぱいいっぱい困窮しているお話をたくさん聞きました。

松山市保健所に収容されている猫が大阪の保護猫カフェに送られて、たくさんのご縁につながっているという話を聞いたのは、「私にできることはないか？」と自問していた時でした。

しかし、その時は、まさか自分が保護猫カフェを開店するとは思っていなかったのですが、あれよあれよという間に物件まで見つけ、「保護猫カフェ Nyacotto」ができました。本当に感謝です。

保護猫カフェとは、リラックスした普段の猫の姿を見て、触れて、新しい家族を探す店のことを言います。

譲渡会でご縁がつながりやすいのは、子猫が大半です。成長した猫は残念ながら譲渡確率が下がります。しかし、成猫は性格も分かっているし、落ち着きもあり、不妊去勢手術もして、とても飼いやすいというメリットもたくさんあるのです。保護猫カフェは、そんな成猫の本来の魅力的な姿をゆっくり感じてもらうのにとっても有効です。

愛媛県は残念ながら犬猫の殺処分数ワースト1の常連です。お世辞にも「愛ある愛媛」とは言えないのです。真の「愛ある愛媛県」になるためにも、身近な小さな生き物に優しい県になって欲しいと思います。

保護猫カフェ Nyacottoは、2021年9月に開店して、現在までに35匹の猫を譲渡できました。また現在、「りんご猫」(猫エイズキャリアの猫)のための部屋を増築中です。発症までに10年～とかかり、普段の生活は普通の猫となんら変わらない「りんご猫」の命も守って



大野恭子さん Nyacotto店内で

ていきたいと思ひます。工事費はカンパで募っています。ご支援いただけたら嬉しいです。よろしくお願ひします。

私の夢は、全世界で殺処分される不幸な動物がいなくなる事。途方もない夢かもしれませんが、一步一步近づいていると思ひます。保護猫カフェを通じて、猫の魅力をたくさん発信していき、新たなご縁をつないでいきたいと思ひます。

大野 恭子
(保護猫カフェ Nyacotto店主)

7月16日開催、いのちと環境を守るえひめミーティング 「今なら止められる！ 山鳥坂ダム建設と野村ダム改造」に参加して



大洲市総合福祉センター(2022. 7. 16)

今回の会合は、中予分水が中止になったのに行政側の惰性で、治水専用ダムとして計画が残る山鳥坂ダム問題、プラス各地のダム問題紹介もあり、気候激変下での洪水対策のあるべき姿についても示す、ごった煮かつ詰め込みのイベントでした。

シンポジウムの様子は当日の録画(スマホでQRコードを読み込んでください)を観ていただくとして、各講演の概要を紹介しします。



- **肱川水系河川整備計画をめぐる基調報告—有友正本氏**
住民参加の無いダム中心の治水対策が破綻したのが、4年前の西日本豪雨での野村ダム・鹿野川ダムの緊急放流による多数の死者、被災者。にも関わらず、国交省は居直り、換骨奪胎の「流域治水」という呼び方を使って、山鳥坂ダムや野村ダムの改造計画を優先して進めている。そのことで、以前から進めるべきと指摘していた河道掘削や堤防の嵩上げ、補強を後回しにしてきた行政を批判しました。
奥島直道弁護士は、肱川水害訴訟の報告で、緊急時放流操作規則で、最大規模洪水時を想定した操作をしていれば、平成30年7月水害は避けられたはずだと指摘。これも以前の水害の後の住民参加で可能だったかもしれません。

- **費用対便益面の懸念**
元愛大大学長、地質学の小松正幸氏が強調していたのは、この一帯の地域は、海溝付加体(秩父帯/三波川変成帯)の変成岩で出来たグズグズの土地であるため、ダムを作ると、災害時の事前放流操作でダム湖周辺の地すべりが誘発される恐れがあり、膨大な地すべり対策工事が追加されるだろうということでした。ダムの建設地点も400mほど上流に移動する計画変更が決まった今が止め時、です。
関連では環境経済学の除本理史氏の解説もありました。仮定や価値判断によって避けられた被害という便益が大きく変わるので住民と事業主体では異なる判断となる、とのこと。

- **流域治水は流域自治から**
熊本川の川辺川ダム反対に関わってこられた中島熙八郎氏は、歴史を紐解いて、氾濫が時折起る前提で大洲盆地が使われていたことを説明し、ダムが出来たのを機に都市化を進めた問題や、線状降水帯の多発など気候災害激甚化の中で、ダム頼りの防災がリスクを無視した対応であると指摘、ダムは各種想定内のケースでだけ機能するバクチだという言を紹介しました。
嘉田由紀子参議院議員は、自ら滋賀県知事選に立候補し8年かけて流域治水条例を作ったことを紹介。球磨川水害、野村ダム直下の避難の事例も紹介しつつ、「近い水」として住民がリスクを認識しながら川と付き合うのがレジリエンス(復活力)を重視すべきこれからの防災と指摘しました。

- **野村ダムの洪水吐け(ばけ)工事は不要なのか? について一言。**
自分は4月に野村ダム事務所の説明会に参加した時、近い将来の2℃昇温時の災害激甚化時の降雨量を想定しておらず、既往最大、つまり平成30年水害時の実績に対応するための工事であると説明を受け、「適応」策が、将来の課題とされていることを知り愕然としました。山鳥坂ダム計画も同様なので、ダムがあれば安心とは言えません。

小倉 正 (X R 四国、生き活き政治ネット世話人)

「りんご猫」支援のチラシ